

< 参考資料 >

1 動物の殺処分方法に関する指針

最終改正 平成 19 年 11 月 12 日環境省告示第 105 号

第 1 一般原則

管理者及び殺処分実施者は、動物を殺処分しなければならない場合にあつては、殺処分動物の生理、生態、習性等を理解し、生命の尊厳性を尊重することを理念として、その動物に苦痛を与えない方法によるよう努めるとともに、殺処分動物による人の生命、身体又は財産に対する侵害及び人の生活環境の汚損を防止するよう努めること。

第 2 定義

この指針において、次の各号に掲げる用語の意義は、当該各号に定めるところによる。

- (1) 対象動物 この指針の対象となる動物で、動物の愛護及び管理に関する法律（昭和 48 年法律第 105 号）第 44 条第 4 項各号に掲げる動物
- (2) 殺処分動物 対象動物で殺処分されるものをいう。
- (3) 殺処分 殺処分動物を致死させることをいう。
- (4) 苦痛 痛覚刺激による痛み並びに中枢の興奮等による苦悩、恐怖、不安及びうつ等の状態等の態様をいう。
- (5) 管理者 殺処分動物の保管及び殺処分を行う施設並びに殺処分動物を管理する者をいう。
- (6) 殺処分実施者 殺処分動物の殺処分に係る者をいう。

第 3 殺処分動物の殺処分方法

殺処分動物の殺処分方法は、化学的又は物理的方法により、できる限り殺処分動物に苦痛を与えない方法を用いて当該動物を意識の喪失状態にし、心機能又は肺機能を非可逆的に停止させる方法によるほか、社会的に容認されている通常の方法によること。

第 4 補則

- 1 (省略)
- 2 対象動物以外の動物を殺処分する場合においても、殺処分に当たる者は、この指針の趣旨に沿って配慮するよう努めること。

2 地域住民等への普及啓発事項（例）

項 目		内 容
エゾシカの特徴	習性的特徴	○群れで移動し、一列に連なって歩くことが多い。 ○驚くと立ち止まり、逃げないことがある。 ○追い詰められると予測できない行動をする。
	身体的特徴	○オスの角は、春は比較的柔らかいが、夏以降は硬く鋭くなる。 ○夜間にはライトの光が反射して目が光る。 ○舗装道路では蹄が滑るため、うまく走ることができない。
出没場所・事故等の状況	出没環境・時間	○緑地、防風林、河川等と道路との交差場所等に出没が多い。 ○薄暮の時間に出没することが多い。
	出没・交通事故状況	■事故の件数、特徴、原因等 ■出没・事故多発場所：ハザードマップ等
目撃した時の対応	道路上での注意事項	○姿や光る目を見たら、後続車に注意して必ず減速する。 ○舗装道路では思った以上に動きが鈍く、転倒することもある。 ○連続して飛び出てくること、一度通り過ぎても戻って来ることもあるため、1頭が通りすぎても油断しない。
	市街地での注意事項	○第一に避難が原則。 ○不用意に接近しない、角があるオスジカには絶対近づかない。 ○脅かさない、犬などをけしかけたりしない。 ○安易に追いかけない、取り囲まない、追い詰めない。
緊急連絡先		■市町村担当窓口、道路管理者、警察署、消防署等

3 過去の主なアーバンディアの捕獲等事例

■ 捕獲できた事例～麻酔以外による方法

【事例1：小学校に出没した負傷ジカ】

捕獲等年月	平成26年6月	連絡時間	午前9時頃	対応時間	約1時間
出没場所（環境）	道東 A市（林と小学校の境界地）				
出没頭数、性別等	頭数	1頭	性別	メス	幼成 幼獣
対応・協力機関等	振興局：2名・市：1名・学校関係者：1名				
出没個体の状況・対応の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校に骨折したシカがいるので対応して欲しいとの連絡があり、振興局及び獣医師が現地確認を実施する。 ・シカは左後肢の基節部に骨折が見られ腫脹していた。 				
捕獲の方法等	・横たわっており、近づいても逃げなかったためそのまま捕獲。				
捕獲個体の処置	<ul style="list-style-type: none"> ・獣医師が予後不良と判断し、薬物を投与し殺処分 ・死体は、市町村が廃棄物として焼却処理 				
使用機資材	麻酔薬（捕獲後の不動化及び殺処分前の意識喪失に使用）及び殺処分薬物、注射器				
捕獲上の留意点	・特になし				
その他特記事項					



【事例2：住宅街に倒れ込んだJR事故の負傷個体】

捕獲等年月	平成24年3月	連絡時間	午後5時頃	対応時間	1時間
出没場所（環境）	道央 B市（道路や商店等が所在する住宅地の狭隘路地）				
出没頭数、性別等	頭数	1頭	性別	メス	幼成 若獣
対応・協力機関等	市：6名 警察：3～5名 猟友会：1名				
出没個体の状況・対応の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・警察から駅付近で電車と接触し、ケガをしたエゾシカが付近の住宅街に逃げ込んだ。無傷の子鹿も一緒にいるとの連絡が入る。 ・北海道猟友会員とともに現場に到着、負傷シカ及び子ジカを確認。 ・負傷個体を確保し、安楽死処分のため搬送。子ジカは林内へ移動。 ・18時頃死亡確認。 				
捕獲の方法等	<p>① 他の住宅地や道路へ逃げ出さないよう、通路となりそうな場所に人間やネットを配置</p> <p>② ロープをかけ個体を各保護ブルーシートで覆い、トラックで搬送。</p>				
捕獲個体の処置	・大学の研究用献体として提供				
捕獲上の留意点	・捕獲時に周辺に飛散した血液の処理が必要				
使用機資材	ネット、ブルーシート、ロープ、小型トラック				
その他特記事項	・マスコミによる現場取材あり。				

【事例3：消波ブロックに挟まったオスジカ】

捕獲等年月	平成24年7月	連絡時間	午前9時頃	対応時間	約2時間
出没場所（環境）	道南 C市（漁港）				
出没頭数、性別等	頭数	1頭	性別	オス	幼成 成獣
対応・協力機関等	振興局・市・警察				
出没個体の状況・対応の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・住民から道路を走っていたシカが乗用車の接近に驚き、防波堤の消波ブロックに挟まり身動きができなくなっているとの通報がある。 ・市職員が現場を確認、振興局へ電話協議。 ・近隣で工事を行っていた現場のクレーン付きトラックにより、エゾシカを救出（捕獲） ・付近の山に放獣（警察が現場付近で交通整理を実施し、安全を確保） 				
捕獲の方法等	・クレーン付きトラックにより救出（捕獲）				
捕獲個体の処置	・放獣				
使用機資材	クレーン付きトラック				
捕獲上の留意点	・放獣の際の交通事故、住民への危害防止				
その他特記事項					

【事例4：住宅街に迷い込んだエゾシカ】

捕獲等年月	平成27年7月	連絡時間	午前10時30分頃	対応時間	約3時間
出没場所（環境）	道南 D市（住宅街を徘徊）				
出没頭数、性別等	頭数	1頭	性別	オス	幼成 1～2歳
対応・協力機関等	市：2名 警察：8名 猟友会：2名				
出没個体の状況・対応の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・警察から住宅街を徘徊しているシカについての通報があり、猟友会とともに現地へ出動。 ・警察から袋小路に個体を追い詰めたと連絡があり、全員現地に集合、網を利用して取り囲み、徐々に包囲を狭め捕獲。 ・手足を捕縛して輸送し、山林内で放獣。 				
捕獲の方法等	<ol style="list-style-type: none"> ① 個体を袋小路に追い詰め、職員等で逃げ出せないよう取り囲む ② 猟友会が持参した網により包囲を徐々に狭め捕獲。 ③ 手足を捕縛し捕獲 ④ 市内山林内で放獣 				
使用機資材	ロープ、網				
捕獲上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・通行車両との衝突回避 ・住宅地への逃走防止 				
その他特記事項	・外傷等がなかったため放獣				

■ 捕獲できた事例～麻酔薬による方法

【事例5：グラウンドにエゾシカが迷い込んだ事例】

捕獲等年月	平成24年12月	連絡時間	午前9時30分頃	対応時間	4時間30分
出没場所（環境）	道央 E市（市街地のグラウンド）				
出没頭数、性別等	頭数	1頭	性別	オス	幼成 成獣
対応・協力機関等	市：数名・警察：数名・NPO法人(市委託):数名				
出没個体の状況・対応の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・グラウンドでシカを目撃情報の連絡があり、現地確認を実施する。 ・グラウンド周囲は一部出入り口を除き、高いネットで囲まれている。 ・麻酔、捕獲後安全な場所で放獣。 				
捕獲の方法等	・グラウンドの隅に追い込み、麻酔を使用して捕獲を実施。				
捕獲個体の処置	・麻酔後山林へ移送し、覚醒、放獣。				
使用機資材	麻酔薬				
捕獲上の留意点					
その他特記事項					



追い詰められたオスジカ



麻酔されたエゾシカ

【事例 6：住宅街にシカが迷い込んだ事例】

捕獲等年月	平成 24 年 10 月	連絡時間	午前 6 時頃	対応時間	約 4 時間
出没場所（環境）	道央 F 市				
出没頭数、性別等	頭数	1 頭	性別	オス	幼成 成獣
対応・協力機関等	市・警察・NPO 法人(市委託)				
出没個体の状況・対応の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・市街地でシカを目撃情報の連絡あり。 ・市の委託業者が現場確認を実施 ・追い込み作業を実施し、ボウガンによる麻酔を実施、睡眠状態となったため、捕獲作業を実施。 ・他所へ移送し電気ショックにより安楽殺 				
捕獲の方法等	<ul style="list-style-type: none"> ・追い込み、ボウガン及び吹き矢を用いて麻酔薬を投与、不動後に捕獲する。 				
捕獲個体の処置	<ul style="list-style-type: none"> ・電気ショックによる安楽殺 				
使用機資材	吹き矢、ボウガン、麻酔薬、家畜電器屠殺器				
捕獲上の留意点					
その他特記事項					

【事例 7：市街地に迷い込んだオスジカ】

捕獲等年月	平成 24 年 10 月	連絡時間	午前 5 時 30 分頃	対応時間	約 8 時間
出没場所（環境）	道南 G 市（住宅街）				
出没頭数、性別等	頭数	1 頭	性別	オス	幼成 成獣
対応・協力機関等	振興局：2 名 市：1 名 警察：6 名 猟友会：2 名				
出没個体の状況・対応の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・警察に複数の目撃情報が寄せられる。 ・関係機関による監視、探索。 ・住民からの再度の通報によりエゾシカを現認 ・グラウンドに誘導し、フェンスに囲まれた場所に追い込んだところで、塀の上から投網を実施。 ・網に絡まり不動となったところ、足を縛り保定。 ・麻酔薬を投与し、沈静化し、車両に積み込み搬出。 ・覚醒を待ち山林内に放獣。 				
捕獲の方法等	<ol style="list-style-type: none"> ① フェンスに囲まれたグラウンドに追い込み ② 塀の上から漁網を投げる ③ 網に絡まり不動となったところを捕獲 ④ 麻酔薬を投与し搬出。 				
捕獲個体の処置	<ul style="list-style-type: none"> ・山林内に放獣 				
使用機資材	ロープ、漁網、サスマタ、麻酔薬注射器、麻酔薬				
捕獲上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・交通事故、通行人への危害の防止 ・捕獲対応者等の安全確保 				
その他特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ・現認時点で人に追われ、相当の興奮状態となっており、壁や塀などに体当たりしている状況であったため、緊急的に捕獲を実施。 				

■ 捕獲できなかった事例

【事例 8：小学校の敷地及び一般住宅に出没したエゾシカ】

捕獲等年月	平成 22 年 7 月	連絡時間	午前 8 時 30 分頃	対応時間	6 日間
出没場所（環境）	道央 H 市（小学校校庭）				
出没頭数、性別等	頭数	3 頭	性別	メス	幼成 成 1, 幼 2
対応・協力機関等	学校：人数不明 市：8 名 警察：6 名				
出没個体の状況・対応の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校校庭内やその周辺にエゾシカ 3 頭が再三出没していると通報があり、警察や教育委員会と連携を取りながら周辺パトロールを実施。 ・周辺に一般住宅や国道があり、事故等の危険があることから追い立てず、見守りを実施（警察による車両への注意喚起、学校側から児童、父母への注意喚起）。 ・エゾシカは林の中に入り姿が見えなくなった。 				
捕獲の方法等					
捕獲個体の処置					
使用機資材					
捕獲上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・交通事故などの 2 次災害防止 				
その他特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ・無理な追い払いはしない。 ・近隣住民から早く駆除しろとの苦情が出ることも多い 				

【事例 9：JR から要請を受けた鉄道林内のエゾシカ捕獲作戦】

捕獲等年月	平成 23 年 6 月	連絡時間	午前 11 時 30 分頃	対応時間	7 時間
出没場所（環境）	道央 I 市（鉄道林内）				
出没頭数、性別等	頭数	1 頭	性別	メス	幼成 成獣
対応・協力機関等	市：14 名 JR 職員：14 名 その他：10 名				
出没個体の状況・対応の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・市民からの通報があり市職員が現地確認。 ・約 40 名で捕獲を試みたが失敗 ・林内から道路等へ出没することはなかったことから、日没とともに捕獲作業を断念した。 				
捕獲の方法等	<ol style="list-style-type: none"> ① 道路への飛び出しを防止するフェンスを設置 ② 勢子がエゾシカを誘導し、麻酔を使用した吹き矢により捕獲する計画 				
捕獲個体の処置					
使用機資材	フェンス（黒幕）、無線、吹き矢など				
捕獲上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・密生した林内ではネット等の使用ができないため、追い込み捕獲は困難 ・まとまった緑地帯へ誘導できれば、後は静観する方針とする。 				
その他特記事項					

【事例 10：住宅街を徘徊するエゾシカの休日対応】

捕獲等年月	平成 23 年 9 月	連絡時間	午前 7 時 30 分頃	対応時間	5 時間
出没場所（環境）	道央 J 市（市街地中心部の立体駐車場）				
出没頭数、性別等	頭数	1 頭	性別	メス	幼成 幼獣
対応・協力機関等	市：10 名 警察：2 名				
出没個体の状況・対応の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・住宅街をエゾシカが徘徊しているとの連絡あり、警察とともに現地確認を実施 ・近くの森林へ誘導したが、目標とした森林と別の方向の林地に逃げ込み見失う。 ・1 時間半ほど様子をみたが、動きがなかったため撤収。 				
捕獲の方法等	① 器具等は使用せず、人手によって誘導した。				
捕獲個体の処置					
使用機資材	なし				
捕獲上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・住宅の庭や生活道路を中心に不規則に移動していたことから、誘導は困難であった。 ・休日のため、市民が多く、対応を阻害されることもあった。 ・人員の不足が顕著であった。 				
その他特記事項					

【事例 11：市街地、河川にシカが迷い込んだ事例】

捕獲等年月	平成 24 年 10 月	連絡時間	午前 8 時頃	対応時間	約 5 時間	
出没場所（環境）	道央 K 市（市街地）					
出没頭数、性別等	頭数	1 頭	性別	オス	幼成	成獣
対応・協力機関等	市及び警察					
出没個体の状況・対応の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・シカの見撃情報が入り、市職員が現地確認を実施。 ・市・警察で捕獲作業を実施。 ・捕獲作業中にシカが現場から逃走。 ・河川敷にいることを確認し、下流方面へ追い込みを実施。 ・途中で河川敷から出て逃走し、見失う。 ・付近を探索するが発見できず、対応終了とする。 					
捕獲の方法等						
捕獲個体の処置						
捕獲上の留意点						
使用機資材						
その他特記事項						



エゾシカ（オス）



エゾシカ（近景）